

2022 World Rowing Cup II 大会報告

2022.6.20

1. 大会概要

大会名 2022 World Rowing Cup II

開催場所 Jezioro Maltanskie (マルタンスキエ湖), Poznan, Poland

大会期間 2022年6月16日(木)～19日(日)

参加人数	LM1x	軽量級男子シングルスカル	15	クルー
	M1x	男子シングルスカル	20	クルー
	LM2x	軽量級男子ダブルスカル	16	クルー
	LW2x	軽量級女子ダブルスカル	16	クルー
	M2-	男子ペア	16	クルー
	W2x	女子ダブルスカル	15	クルー
	M4-	男子フォア	12	クルー

2. 参加者名・成績・レース概要

■LM1x 安井 晴哉 選手 (トヨタ紡織)

予選 5着/5クルー 7分18秒66

敗者復活 5着/5クルー 7分21秒70

ファイナルC 3着/3クルー 7分27秒17

(総合15位/15クルー)



【予選】500mを2位で通過するものの、その後順位を下げ敗者復活に回るようになった。しかしながら、初の国際レースにもかかわらず、最初のレースのスタートから積極的に攻める姿勢などの強い意思と意欲はチームにも良い影響を与えることに繋がった。

【敗者復活】序盤から思ったように前に出ることができず苦しい展開が続き、ファイナルCにまわるようになった。

【ファイナルC】スタートからトップに立ち積極的にレースを引っ張ったが、中盤以降順位を下げ総合15位となった。

■M1x 山尾 圭太 選手 (トヨタ紡織)

予 選 4着/5クルー 7分09秒00

敗者復活 4着/4クルー 7分07秒97

ファイナルC 3着/6クルー 7分14秒43

(総合15位/20クルー)



【予選】着順ではクルー中4着ではあったものの、タイムでは全体の真ん中に位置し、激戦種目の中で健闘をみせた。

【敗者復活】東京五輪 M2x 金メダルのフランスの選手と並べる機会となり、健闘したもののファイナルCに回るようになった。

【ファイナルC】序盤から最後尾となる苦しい展開ではあったものの、中盤から粘り強く追い上げ、ラストクォーターでは素晴らしいスパートを見せ最終的には3着でフィニッシュ。WC3につながる価値あるレースとなった。

■LM2x JPN1 S 宮浦 真之 選手 (NTT 東日本) B 武田 匡弘 選手 (関西電力)

予 選 4着/5クルー 6分39秒00

敗者復活 1着/5クルー 6分22秒36

セミファイナルA/B 4着/6クルー 6分32秒88

ファイナルB 2着/6クルー 6分42秒88

(総合8位/16クルー)



【予選】セミファイナルA/B通過ラインとなる2着以内の射程圏内に収めながらも惜しくも届かず、敗者復活にまわった。

【敗者復活】第2クォーターからトップに立ち堂々とレースを進め、1着でセミファイナルA/B進出を決めた。

【セミファイナルA/B】序盤からレースの主導権を握り1000mではトップで通過するなど、ファイナルA進出を大いに期待できる展開であったが、後半やや減速し4着でフィニッシュ。ファイナルBにまわるようになった。

【ファイナルB】序盤は中位でレースを進めるものの、後半激しく追い上げトップのオーストリアに肉薄する2着でフィニッシュ。総合8位となった。

■LM2x JPN 2 S 西村 光生 選手 (アイリスオーヤマ) B 古田 直輝 選手 (NTT 東日本)

予 選 4 着/5 クー 6 分 30 秒 54

敗者復活 3 着/5 クー 6 分 24 秒 56

セミファイナル A/B 4 着/6 クー 6 分 32 秒 61

ファイナル B 5 着/6 クー 6 分 50 秒 69

(総合 11 位/16 クー)



【予選】、前半からトップに立ちレースを引っ張るが、後半ペースがやや鈍り 4 着でフィニッシュ。

【敗者復活】 1 着から 5 着までが 1.71 秒差の中でフィニッシュするという混戦の中で 3 着を堅守しセミファイナル A/B 進出を果たした。

【セミファイナル A/B】 序盤からレースの流れについて行くも、苦しい展開のままフィニッシュ。ファイナル B にまわることになった。

【ファイナル B】 序盤から積極的に仕掛けるが、後半徐々に後退し 5 着でフィニッシュ。総合 11 位となった。

■LW2x JPN 1 S 廣内 映美 選手(明治安田生命) B 富田 千愛 選手(東京大学RSL)

予 選 5 着/5 クー 7 分 17 秒 29

敗者復活 4 着/5 クー 7 分 12 秒 11

ファイナル C 1 着/4 クー 7 分 12 秒 80

(総合 13 位/16 クー)



【予選】 序盤から主導権を握れず苦しい展開となり 5 着でフィニッシュ。敗者復活にまわることとなった。

【敗者復活】 セミファイナル A/B への通過ラインである 3 着以内をとらえられるポジションでレースを展開し、ラストクォーターでも追い上げを見せたものの、僅差でかわされファイナル C にまわることになった。

【ファイナル C】 序盤でデンマークに先行を許したが、持ち味を発揮し徐々に追い上げ、ラストクォーターで差し切り 1 着でフィニッシュ。総合 13 位となった。

■LW2x JPN2 S 大西 花歩 選手(デンソー) B 木野田 沙帆子 選手(明治安田生命)

予 選 5 着/6 クル 7 分 07 秒 95

敗者復活 5 着/5 クル 7 分 13 秒 93

ファイナル C 4 着/4 クル 7 分 25 秒 26

(総合 16 位/16 クル)



【予選】序盤から苦しい展開となるものの、ラストクォーターで意地を見せ 5 着にポジションを上げてのフィニッシュ。敗者復活にまわることになった。

【敗者復活】セミファイナル A/B への通過ラインである 3 着以内をとらえられるポジションでレースを展開し、ラストクォーターでも必死に追い上げるも惜しくも届かず。ファイナル C にまわることになった。

【ファイナル C】前半は積極的にレースの流れについて行くものの、中盤以降ペースがやや鈍り、立て直しを図ったが 4 着でフィニッシュ。総合 16 位となった。

■M2- JPN1 S 荒川 龍太 選手 (NTT 東日本) B 大塚 圭宏 選手 (NTT 東日本)

予 選 2 着/6 クル 6 分 31 秒 28

セミファイナル A/B 1 着/6 クル 6 分 30 秒 33

ファイナル A 4 着/6 クル 6 分 38 秒 99

(総合 4 位/16 クル)



【予選】、序盤から東京五輪 M8+金メダリストを要するニュージーランドと激しいトップ争いを繰り広げ、2 着でセミファイナル A/B 進出を果たした。

【セミファイナル A/B】序盤からファイナル A 通過ラインの 3 位以内を維持し、後半さらにポジションをあげ 1 着で歴史的なファイナル A 進出を決めた。

【ファイナル A】序盤全てのクルーに先行される苦しい展開となったが、持ち味を活かし徐々にポジションを上げ、ラストクォーターではアメリカと 3 位争いを繰り広げるものの惜しくも 4 位でフィニッシュ。しかしオープン種目チャレンジにおける新たな 1 歩を記すこととなり、多くの日本ボート関係者に勇気を与えることになった。

■M2- JPN 2 S 志賀 巧 選手 (東レ滋賀) B 福田 将 選手 (東レ滋賀)

予 選 6 着/6 クル 6 分 46 秒 16

敗者復活 4 着/5 クル 6 分 42 秒 82

ファイナル C 3 着/4 クル 6 分 50 秒 81

(総合 15 位/16 クル)



【予選】中国と激しく競り合い SR39 で漕ぎ通すなど意地を見せたが、敗者復活にまわることとなった。

【敗者復活】セミファイナル A/B を伺える位置で熱いレースを展開するが、後半徐々に離されファイナル C にまわることとなった。

【ファイナル C】序盤からのウクライナとの激しいデッドヒートを制し、3 着でフィニッシュ。総合 15 位となった。

■W2x JPN1 S 米川 志保 選手 (トヨタ自動車) B 大石 綾美 選手 (アリスオーヤマ)

予 選 4 着/5 クル 7 分 01 秒 51

敗者復活 1 着/6 クル 7 分 00 秒 26

セミファイナル A/B 5 着/6 クル 7 分 11 秒 97

ファイナル B 4 着/6 クル 7 分 31 秒 32

(総合 10 位/15 クル)



【予選】セミファイナル A/B 進出ラインの 3 着以内を狙える位置でレースを展開したが、中盤思うように伸ばせずラストスパートで追い上げるものの僅差で敗者復活にまわることになった。

【敗者復活】序盤からトップに立ち優位にレースを進め、そのまま 1 着でセミファイナル A/B 進出を決めた。

【セミファイナル A/B】ファイナル A 進出ラインの 3 着の可能性を残しながらレースを展開するも、後半巻き返すことができずファイナル B にまわることになった。

【ファイナル B】序盤から積極的にレースを引っ張り 1000m を 2 位で通過するが、後半ややスピードが鈍り 4 位でフィニッシュ。総合 10 位となった。

■W2x JPN2 S 西原 佳 選手 (プリントパック) B 榊原 春奈 選手 (トヨタ自動車)

予 選 5 着/5 クル 7 分 13 秒 54

敗者復活 5 着/6 クル 7 分 09 秒 98

ファイナル C 2 着/3 クル 7 分 18 秒 43

(総合 14 位/15 クル)



【予選】序盤 JPN 1 と共にセミファイナル A/B が狙える位置でレースを展開するが、中盤以降徐々に離され敗者復活にまわることになった。

【敗者復活】セミファイナル A/B 進出を伺える位置を維持したものの、惜しくもファイナル C にまわることになった。

【ファイナル C】トップを走る地元ポーランドに食らいつき 2 着でフィニッシュ。総合 14 位で大会を終えた。

■M4- S 西 知希 選手 (NTT 東日本) 3 新井 勇大 選手 (明治安田生命)
2 高野 勇太 選手 (NTT 東日本) B 林 靖晴 選手 (NTT 東日本)

予 選 5 着/6 クル 6 分 09 秒 42

敗者復活 5 着/5 クル 6 分 15 秒 13

ファイナル B 6 着/6 クル 6 分 29 秒 99

(総合位 12/12 クル)



【予選】主導権争いに食らいつこうとするものの、徐々に離され敗者復活にまわることになった。

【敗者復活】序盤健闘するも中盤以降じりじりと離され、ファイナル B にまわることになった。

【ファイナル B】これまでのレースと同じ展開になりかけたが、後半気合いの追い上げを見せ、中国を追い詰めたが惜しくも届かず、12 位で WC2 を終えることになった。

以上